

## 「東大見学会、OBOG 座談会、ディレクトフォース訪問・厚生病院天野教授訪 見学記録」

1738 Y・H

### ・ディレクトフォース

このディレクトフォース訪問見学では、外交官・青年海外協力隊・各国での日本大使館など、海外を拠点とした活動し、現在笹川平和財団において、政府が支援しきれない社会問題についての取り組みを行っていらっしゃる方々からお話を聞くことが出来ました。

第一ターンでは、大学から留学し、イギリスで修士号を取得の後、青年海外協力隊の村落開発普及員を経験されました土居義範様との対談でした。

現代社会に必要なチーム力についてお尋ねしたところ、重要なことは、

- ①相手の話をよく聞くこと
- ②チームで1つの目標を共有しあうこと
- ③チーム内の個人間ではなく、チームの為に働きかけること

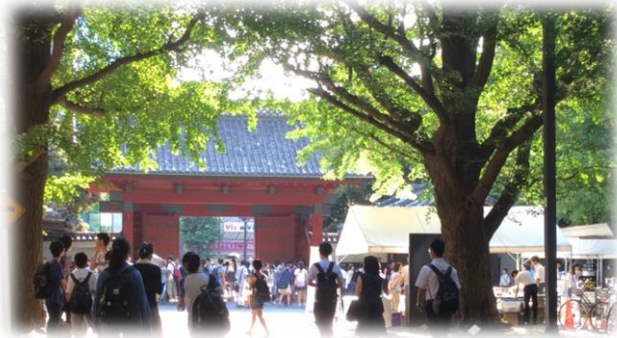
とおっしゃいました。また、第四ターンでの山田正実様にも同じ質問をしたところ、「日本は島国であるために同質性があるため、日本人同士では、[空気を読む]ことで曖昧な表現や言い回し、アイコンタクト等だけでも互いの気持ちや状況が分かり合えることがあるが、海外の方とはそうもいかず、明瞭な言葉で事実を伝えることが必要で、外国人とチームを組んだ時に日本人が戸惑うポイントの一つである。」というアドバイスを頂きました。また、[空気を読む]ということが、[おもてなしの心]にもつながっているため、日本人として、良い意味で空気を読むということはとても素晴らしい心遣いになるそうです。私は、将来医師を目指しており、志望理由の一つとして、[チーム医療の素晴らしさへの憧れ]というものがあり、海外でのお仕事に携わりたいという希望もある為、とても有意義で、貴重なお話でした。

第二第三ターンでも、海外に行くことで見えてくる日本の良さや、海外生活に慣れるために重要なことなど関心する話ばかりで、貴重な体験となりました。

### ・OBOG 座談会・東大見学

東大。私にとって東大は、受験するしなないに関わらず、夢のまた夢。閉ざされた異次元のような存在でした。しかし今回の OBOG 座談会・東大オープンキャンパスを通して大きく印象が変わりました。

まず始めに、OBOG 座談会で驚いたことは、理転・文転した先輩や、将来の夢がいまだ定かでない先輩が多くいらしたことです。てっきり、将来の夢が幼い頃から明確で、夢に向かって必死で勉学に励んでいる方ば



かりだと思っていましたが、一・二年次の教養学部を経て、その後の学部選択をするという東大のシステムによって、将来の選択が広がり、そこで将来の志望を決定する方が多いようだ。また、あるOBからは、「進路が確実に決まっている人には東大は回り道になってしまう。」とまで言われました。

どの先輩も無理やり勉強しているのではなく、自分のペースに任せて伸び伸びと取り組んでいるように見受けられました。「学習塾や予備校に行かずともいつの間にか先取り学習をしていた。」「集中力が続かないときは思いっきり寝た。」「息抜きで二～三時間マンガを読んでいた。」等々、勉強の効率を重視していることと、向上心が高いこと、自分に自信を持っていることがお話の中から伝わってきました。私にとって特に心強かったお話は、「一年生の頃の間中間考査は160位だった。」というもので、私自身そのくらいの順位だったため、東大に関わらずまだまだ道が閉ざされた訳ではないと思いました。ただし、最終的には10番以内というのも聞き狭き道であることを改めて確認させられました。

現在私は国公立だけでなく、私立も視野に入れているため、滑り止めの私立について聞いたところ、慶応・早稲田・順天堂・千葉大・東工大等が挙げられました。

勉強方法は、朝型の人・夜型の人どちらもいましたが、睡眠時間はしっかりと確保していたようでした。日中以外に勉強すると集中力に欠ける私は、もう少し考えるべきだと思いますが、とても参考になる体験談でした。

二日目の東大オープンキャンパス。こちらでは芳賀信彦教授による模擬講義[専門医学としてのリハビリテーション]と、医学部図書館・資料室の見学が印象的です。

階段状になった伝統を感じさせる講義室での模擬講義は全身で「学問」の姿を感じました。講義内容も、大した医学知識のない私でも大変わかりやすく、普段はなかなか目を向けないことでしたが深く考え、関心を寄せることが出来ました。東大に入ったらこのような魅力的な授業が聞けると思い、今後、モチベーションを上げる一つの手立てになると思っています。

図書館・資料室見学では、多大な量の論文や外国語の参考書に圧倒されました。私が普段見ている医療ドラマのDVDが置いてあるのを見て親近感を感じたのも実際の心境です。PCルームには「東大生・東大教職員・東大院生・卒業生・元職員利用可能」とあり、卒業生や元職員も全面的にバックアップする東大の模の大きさに感心しました。自習スペースも広く、使用させて頂いたたった三〇分間はものすごく効率よく勉強できていたような気がします。

歴史の詰まった西欧風のキャンパスはどの施設も魅力的で、東大生は皆充実しているように見え、志望にこだわりを持ち、最後まで諦めずに大学に入る



ことの大切さを実感しました。

#### ・ 生病院天野教授・池田先生・院内訪問見学

天野教授の手術状況により日程が大きく変更し、当日も対談直前まで手術を行い、対談直後には直ちに他県に移動するというとてつもないハードスケジュールの中、私たちの為に合間を縫って対談して頂きました。

教授からは、名医としての心境、心構え、意識していることなど貴重なお話を聞かせていただきました。先生は普段、手術に関わらず、お仕事をなさるときには、「今日はここまでやるぞ」というノルマを決め、終わるまで全集中力を向け、一心不乱にこなすそうです。私は、掃除や宿題、何をするにもただらだらしがちなので、更にメリハリを意識していなければならぬ点です。他にも手術中に大切な事は、一つ一つ丁寧にこなしていくこと・簡単なミスをしないこと・焦らないこと等今の私たちの部活や勉強に精通しているところばかりでした。また、先生は医師としてコミュニケーションを大切にされており、これは高校生の内にしっかりと身に付ける様にとお話しされました。天皇陛下の手術を施した名医からは強い信念と覚悟が感じられました。



天野教授を待っていた時間には厚生病院内の病理室を見学させてもらい、胃・膵臓・肺、ビニール越しには子宮・がん・腫瘍に触れさせて頂きました。研究医でもなく、臨床医でもない私新たな職種に出会えました。

仙台二高出身、国境なき医師団として活動なさっている池田先生。趣味は多岐にわたり、自分の志望していた進路に進んだことで、大変充実した日々を送られているそうです。先生が東北大を志望した理由や、宮城を拠点に活動を続ける理由など私の進路に直結するようなお話も聞くことができ、とても参考になりました。

厚生病院の訪問見学を経て、これまでは目を向けたことが無かった病理医や、国境なき医師団について。名医の在り方。短い時間にたくさんの刺激を受けました。

#### ・ 東大見学企大学訪問を通して

これまで大学と言ったら東北大学しか目にしたことなかった私にとって、東大のオープンキャンパスはこれまでの「大学」という私の想像を覆し、ディレクトフォース・厚生病院の訪問・対談では私の進路を改めて考え直すとともに、将来には可能性があるという

ことを示してくれた一生に一度あるかないかのどれも本当に素晴らしい経験でした。このようなプログラムを企画して頂いた仙台二高、協力して頂いたディレクトフォース・厚生病院・OBOG の皆さん・天野教授・池田先生には、伝えきれないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。

天野教授がおっしゃっていたように「私はこの業界に身をささげ、悔いを残しながら終わりを迎える運命なのだ」という覚悟をもった芯の強い医師になれるよう励んでいきたいと思います。